

# 伊平屋村歴史文化基本構想

## 報告書

琉球国の兆し



平成 29 年 3 月

伊平屋村

## はじめに

本村は、自然豊で歴史や文化に彩られた沖縄県最北端の島である。近年、島の周辺海域に鉱物資源が発見された旨のニュースが流れるかたわら、2億5千万年の島の成り立ちと、島の人々の暮らしを知る歴史ロマンの旅は、必要不可欠な時宜を迎えた事になる。

ところで、平成24年に文化庁は「歴史文化基本構想策定技術指針」を策定した。その定義は、「地域の存在する文化財を、指定、未指定にかかわらず幅広く捉えて、的確に把握し、文化財をその周辺環境まで含めて、総合的に保存・活用するための構想」としている。

そこで、本村は平成25年11月より民俗学研究家の上江洲均氏、グスク研究家の當眞嗣一氏、琉球大学の尾方隆幸先生（地形地質学）、（有）MUI景画のスタッフのご尽力を頂き、伊平屋島の悉皆調査を実施した。さらに、平成27年からは、悉皆調査のデータを基に「伊平屋村歴史文化基本構想」策定に取りかかることにした。

その結果、特に興味深い現実が姿を現し始めたのである。島を連なる4つの山々にグスク跡が発見されたことである。島の中心部に当たる我喜屋集落の腰岳のグスクは、第一尚志の祖、屋蔵大主の蔵屋敷や屋敷跡を予見する景観や上里遺跡が近くにあり、その関連性を綿密に調査・研究・整理することにより、琉球王国の礎を築いた尚巴志の曾祖父「屋蔵大主」に繋がりはしないかと、心躍るおもいがするのである。

今回の「伊平屋村歴史文化基本構想」策定にあたり、「有形・無形・民俗・記念物・文化的景観・伝統的建造物群」等、幅広く貴重な遺産が発見された事は、離島故の過疎地化している本村に大きな宝物が与えられたと言っても過言ではない。

この大切な歴史文化遺産を、島の未来に向けた一条の光にするには、歴史文化基本構想策定委員会や文化財審議委員会等を意図的・計画的・組織的に運営し、島の観光資源やイベント開発等ビジネスチャンスと連動して、島興しの一助にしなければならないだろう。

そのために、教育委員会の役割は、今後も継続的に発掘調査を長期スパンで推進しなければならない。合わせて、保守管理のあらゆる方策を示して、本村を訪れる多くの方々が本村の魅力を満喫できるように、村民の意識改革も押し進めなければならない。

結びになりますが、本村の歴史文化遺産に関する発掘調査に向けて理論的実践的に指導支援を頂いた、文化庁及び沖縄県教育庁文化課には衷心より感謝を申し上げたい。また、當眞嗣一先生や上江洲均先生、尾方隆幸先生、（有）MUI景画のスタッフの皆様には、今後ともより一層のご尽力を賜りたくお願い申し上げ、本村の文化財行政充実発展を目指して努力を重ねる所存である。

平成29年3月

伊平屋村教育長 東恩納吉一

# 伊平屋村歴史文化基本構想

## 目 次

### 第1章 歴史文化基本構想の背景と考え方

1. 基本的な考え方	1
2. 関連文化財群の考え方	4
3. 歴史文化保存活用区域の考え方	4
4. 保存活用（管理）計画の考え方	5
5. 歴史文化基本構想の策定経緯と位置付け	6

### 第2章 伊平屋村の歴史文化の特徴

1. 伊平屋村の概要	7
2. 伊平屋村歴史民俗資料館の概況	9
3. 伊平屋島と野甫島の成り立ち	10
4. 文化財の概況	16
5. 歴史変遷からみた歴史文化の特徴	24
6. 集落移動した田名と我喜屋	38
7. 集落が受け継ぐ祭りなどの年中行事	40
8. 古墓	50

### 第3章 関連文化財群と歴史文化保存活用区域の考え方

1. 伊平屋村における関連文化財群の考え方	51
2. 伊平屋村における歴史文化保存活用区域の考え方	52
3. 歴史文化保存活用区域とテーマ	58

### 第4章 歴史文化保存活用区域の方向性

1. 島の成り立ちと神話	60
2. 琉球国の兆し	64
3. 大田名節に詠われる美しいシマ	72
4. 漁労文化が息づく島尻	78
5. 聖なる原風景のシマ	82

### 第5章 保存活用に向けた課題

資料編 委員会議事録（第1回～第4回）	86 91
------------------------	----------



# 第1章 歴史文化基本構想の背景と考え方

## 1. 基本的な考え方

### 1) 歴史文化基本構想の定義と策定方針

文化庁は、平成24年2月に「歴史文化基本構想」策定技術指針を策定した。構想の定義や策定方針、対象範囲、期待される効果について以下のように定めている。

#### 歴史文化基本構想の策定

##### 【定義】

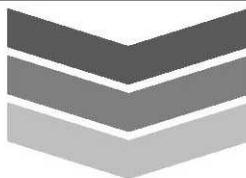
地域に存在する文化財を、指定・未指定にかかわらず幅広く捉えて、的確に把握し、文化財をその周辺環境まで含めて、総合的に保存・活用するための構想

##### 【策定方針】

- ①文化財保護施策を、一貫性を持って推進する。
- ②未指定文化財を視野に含め、文化財保護施策の充実を図る。
- ③文化財とそれをとりまく環境の一体的な保全を図る。
- ④個々の文化財の価値や性質を十分踏まえる。
- ⑤文化財保護に関する情報を、多くの関係者と共有する。

##### 【対象範囲】

「歴史文化」とは、文化財とそれに関わる様々な要素とが一体となったものを指す。文化財に関わる様々な要素とは、文化財が置かれている自然環境や周囲の景観、文化財を支える人々の活動に加え、文化財を維持・継承するための技術、文化財に関する歴史資料や伝承等であり、**文化財の周辺環境**と言い換えることができる。



#### 地域主体の文化財の保存・活用

##### 文化財保護施策の展開

- 多様な文化財の価値の顕在化による適切な保存・活用
- 文化の薫り高い空間の形成
- 人々の交流の発生
- 住民の地域への理解、地域に対する誇りの向上
- 他の行政分野と連携の促進

##### 期待される効果

- 》》》 社会的気運の高まり
- 》》》 地域の魅力の増進
- 》》》 地域の活性化
- 》》》 地域との連携協力の推進
- 》》》 連携のきっかけづくり

##### (1) 定義

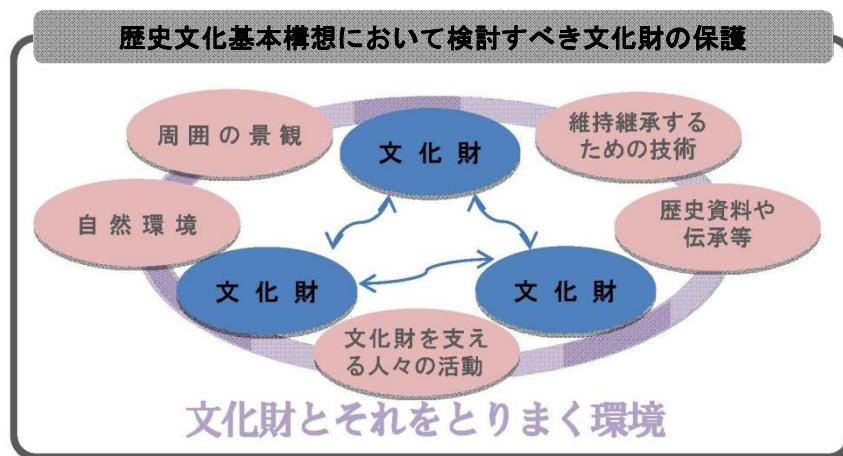
地域に存在する文化財を、指定・未指定にかかわらず幅広く捉えて、的確に把握し、文化財をその周辺環境まで含めて、総合的に保存・活用するための構想であり、地方公共団体が文化財保護行政を進めるための基本的な構想となるもの。

## (2) 策定方針

- ・文化財保護施策を、一貫性を持って進めるための構想とする。
- ・未指定文化財を視野に含めるなど、文化財保護施策の充実を図るための構想とする。
- ・文化財とそれをとりまく環境の一体的な保護を図るための構想とする。
- ・個々の文化財の価値や性質を十分踏まえた構想とする。
- ・文化財保護に関する情報を、多くの関係者と共有するための構想とする。

## 2) 歴史文化基本構想の対象範囲

歴史文化基本構想にある「歴史文化」とは、文化財と文化財に関わる様々な要素とが一体となつたものを指している。この文化財に関わる様々な要素とは、文化財が置かれている自然環境や周囲の景観、文化財を支える人々の活動に加え、文化財を維持・継承するための技術、文化財に関する歴史資料や伝承等であり、文化財の周辺環境と言い換えることができる。



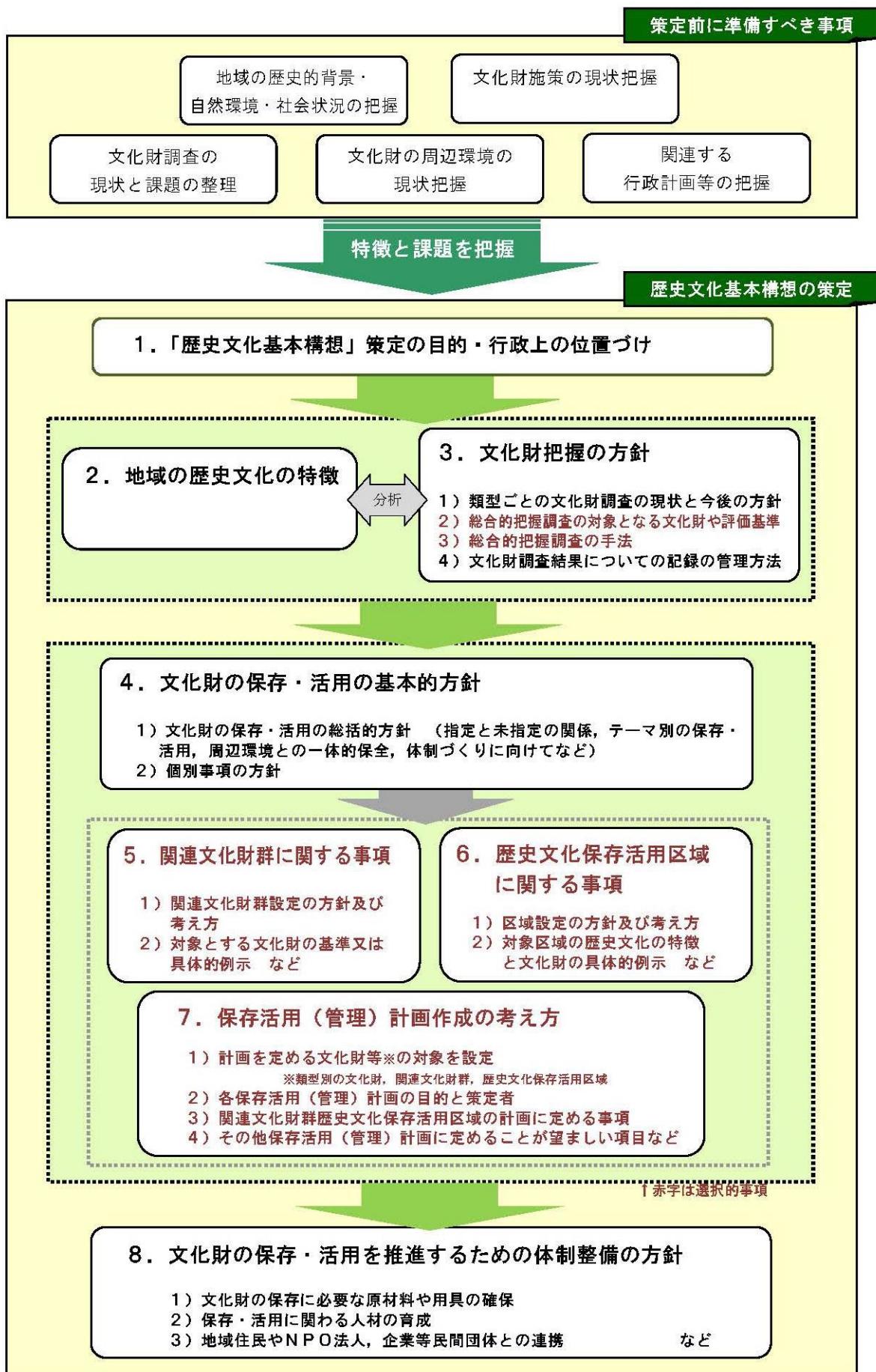
歴史文化基本構想の対象範囲の概念図（文化財とそれをとりまく環境である）

## 3) 期待される効果

「歴史文化基本構想」を策定することにより、その策定過程から策定後も含め、以下のような様々な効果が期待される。これらは結果として、文化財保護の充実にも資するものといえる。

- ・文化財を総合的に把握することは、類型ごとの文化財保護の枠組みでは考慮しづらい視点からも捉えることになり、文化財が有する多様な価値を顕在化することができる。その結果、他の文化財や周辺環境と一体的に保存・活用することの必要性が周知され、社会全体として文化財を保護するという気運にもつながる。
- ・文化財をその周辺環境と一体的に捉えることによって、文化財を核とした地域の魅力の増進につながり、地域の活性化にも資する。
- ・文化財を人々の営みの中で、自然や風土、社会や生活を反映しながら今まで伝承され、発展してきたものという視点から捉えることにより、文化財は地域にとってのかけがえのないものとして捉えられる。その結果、地域との連携協力の推進が図られる。
- ・「歴史文化基本構想」の策定に当たり、関係機関との連携が不可欠であることから、他の行政分野との連携を図るための契機にもなる。

#### 4) 歴史文化基本構想の流れ



## 2. 関連文化財群の考え方

### 1) 技術指針における関連文化財群の考え方

技術指針では、関連文化財群の考え方を以下のように示している。

#### (1) 複数の関連する文化財

関連する複数の文化財を関連文化財群として捉え、一体的に保存・活用していくことは、文化財の魅力を高めるとともに、魅力的な形でかつ分かりやすく価値を伝えていくための効果的な方策の一つである。

#### (2) 歴史的・地域的関連性

関連文化財とは、有形・無形、指定・未指定にかかわらず様々な文化財を歴史的、地域的関連性に基づき一定のまとまりとして捉えたものであるが、どのような観点からまとめるのか、あるいはどのような文化財を対象にするかにより、多様な捉え方が考えられる。

そのため、関連文化財群を設定する場合には、各地方公共団体の実情に応じて、その捉え方、対象となる文化財の基準等についての考え方を明確にすることが必要である。

#### (3) 同類型の文化財群、類型を超えた群の設定

なお、これまでにも伝統的建造物群や史跡における古墳群や名勝における庭園群など、同じ類型の文化財を群として保護してきたものもあるが、関連文化財群については、類型を超えた群の設定も想定している。

### 2) 「歴史文化基本構想」策定ハンドブックにおける解説

「歴史文化基本構想」策定ハンドブックでは、技術指針の関連文化財の考え方に対して解説しており、部分を以下に抜粋する。

#### (1) 歴史的・地域的関連性（ストーリー）に関する文化財群

本来文化財は種別ごとに保護されてきたために、次第に文化財に関係のある様々な要素が見落とされてしまいがちである。文化財本来の価値を適切に保存するためには、文化財を単体として捉えるだけではなく、歴史的・地域的関連性（ストーリー）に関する文化財を群として捉えることが重要であり、この結果が文化財の理解を深めることにつながる、さらに、文化財を一つの種別で捉えるだけではなく、地域の歴史的、地域的関連性を示すストーリーに欠かせないモノとして捉えることは、国民に分かりやすく伝えることになる。 中略

#### (2) 活用の観点からのストーリー設定

歴史的・地域的関連性（ストーリー）は、様々な側面から捉えることが可能であり、今後増えていくことも考えられる。また、ストーリーを設定する際は、地域の歴史的な関連性に基づくものだけではなく、活用の観点からストーリーを設定することなども考えられる。

## 3. 歴史文化保存活用区域の考え方

### 1) 技術指針における歴史文化保存活用区域の考え方

技術指針では、歴史文化保存活用区域の考え方を以下のように示している。

#### (1) 文化財集中地域と一体となる周辺環境を含めた文化的な空間

歴史文化保存活用区域とは、不動産である文化財や有形の文化財だけでなく、無形の文化財も含めて文化財が特定地域に集中している場合に、文化財と一体となって価値を形成する周辺環境も含め、当該文化財（群）を核として文化的な空間を創出するための計画区域として定めることが望ましい区域である。

#### (2) 歴史文化を核とした地域づくり

歴史文化保存活用区域を設定する場合には、その目的、区域を設定するための要件等、地方公共

団体の実態や文化財の特性に応じて、これらの考え方を明確にすることが必要である。

歴史文化保存活用区域を設定するにあたっては、都市計画担当部局や景観担当部局等、他の部局との連携を図りながら区域を設定し、文化財を核とした歴史文化の薫る地域づくりが総合的に推進されることが期待される。

#### 4. 保存活用（管理）計画の考え方

保存活用（管理）計画とは、実際に文化財を総合的に保存・活用するために必要とされる詳細な計画であり、「歴史文化基本構想」とは別に作成するものである。

そのため、保存活用（管理）計画を作成する際には、地方公共団体の文化財保護施策の基本となる「歴史文化基本構想」において、対象となる文化財（群）、保存活用（管理）計画を作成する者、文化財（群）とその周辺環境の整備の方針、その他の保存活用（管理）計画に定めることが望ましい項目等について考え方を明確にすることが必要である。この考え方に基づき、保存活用（管理）計画を策定することとする。

これまで、文化財である建造物については、所有者による主体的な活用の推進を目的とした保存活用計画の策定が進められてきている。また、史跡名勝天然記念物についても、保存管理計画を策定し、適切な保存管理が進められてきている。これらの計画も保存活用（管理）計画とみなし、文化財を総合的に保存・活用するために積極的に策定することが望まれる。

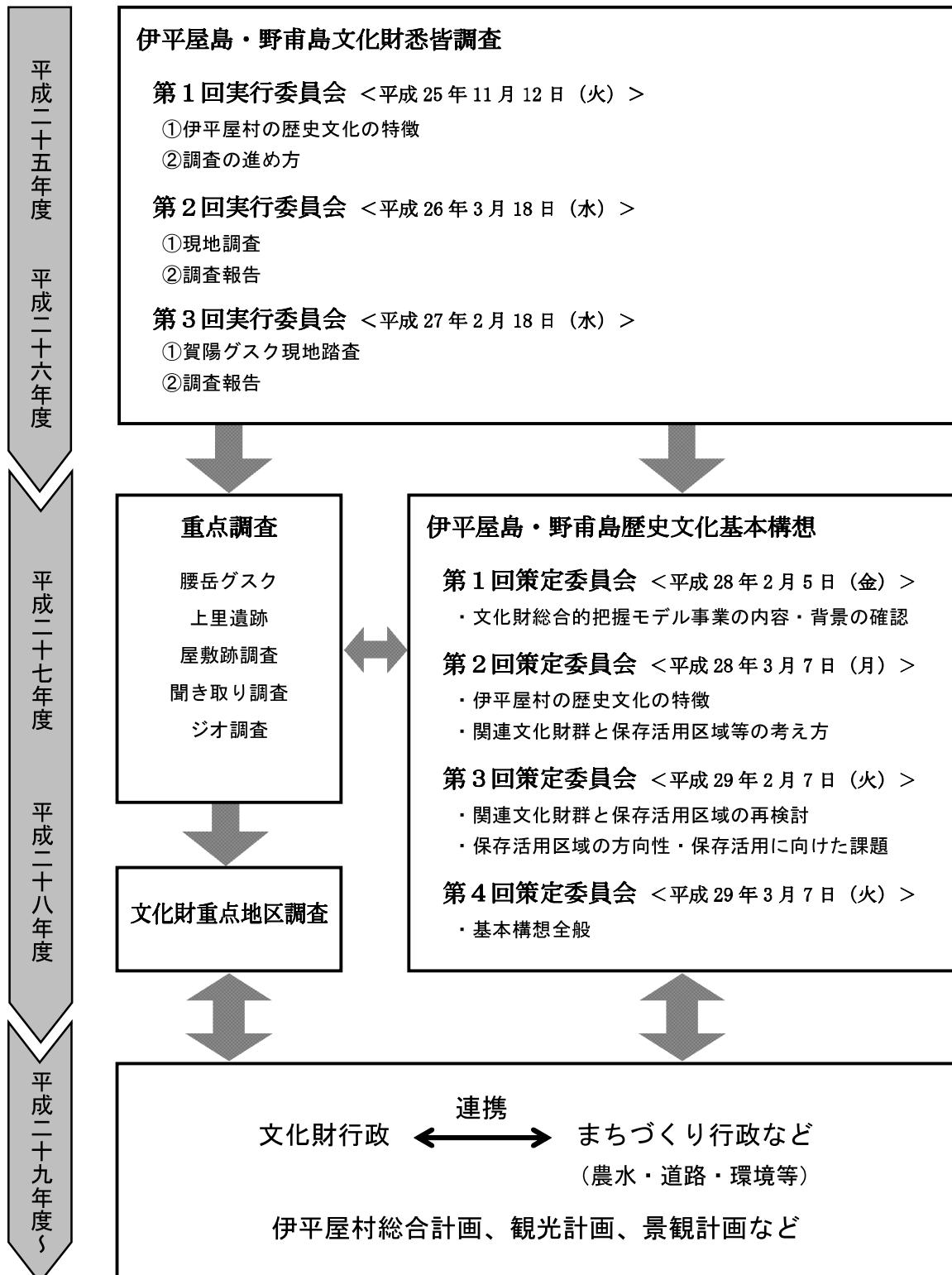
さらに、史跡と重要文化財（建造物）や伝統的建造物群保存地区と名勝など異なる文化財類型が重複して指定等されている場合、保存活用（管理）計画を策定し、調整を図るとともに、総合的に保存・活用を図ることができるようにしておくことが望ましい。

これらに加え、歴史文化保存活用区域を設定した場合には、周辺環境も含めて一体的に保存・活用を推進するために保存活用（管理）計画を策定することが望ましい。

保存活用（管理）計画を作成する者としては、基本的に地方公共団体が想定されるが、文化財によっては地方公共団体以外の所有者等が策定することも想定される。

定めるべき事項については、文化財の保存・管理の方針や整備・活用の方針、体制整備の方針、具体的な事業計画等が考えられる。なお、具体的な事業計画を定める場合は、都市計画や景観計画等、関連する他の計画と整合性を図るように十分留意する必要がある。

## 5. 歴史文化基本構想の策定経緯と位置付け



## 第2章 伊平屋村の歴史文化の特徴

### 1. 伊平屋村の概要

#### 1) 村の位置と地勢

##### (1) 位置

伊平屋村は沖縄県の最北端に位置し、おおよそ辺戸岬の西約40km、与論島のほぼ真西にある。

伊平屋村は伊平屋島と野甫島の2島からなり村面積は21.72km<sup>2</sup>、北東～南西方向に細長い形状を呈し、野甫島が南西端に位置している。

##### (2) 地勢

伊平屋島の地質は、県内で最古の地層といわれる古生代二疊紀の伊平屋層が島の北海岸に分布し、島の主要部はチャートからなり標高の低い海岸部では砂礫層が分布している。野甫島は琉球石灰岩からなり、いわゆるアワ石状の石灰岩である。

伊平屋島の地形は島の北東側からクバ山、タンナ岳、後岳、アサ岳、腰岳などの山々が連山として発達し、島中央部に前岳、その南西側に標高293.9mと最も高い賀陽山、阿波岳からなる山地が島の骨格となっている。これらの山間部に囲まれて低湿地では稲作を中心とした農業が営まれ、集落が形成されている。一方、野甫島はほぼ四角形状をした低平な島である。

また、島の周囲は裾礁型のリーフが平均500mの幅で島を囲っており、島尻の最も幅広く発達した海岸部では2kmにも達する。



#### 2) 人口と集落

伊平屋村は田名・前泊・我喜屋・島尻・野甫の5つの字に分かれており、平成29年度2月末日現在の総人口は1,269人、そのうち男性は667人、女性は602人、総世帯数は586世帯である。

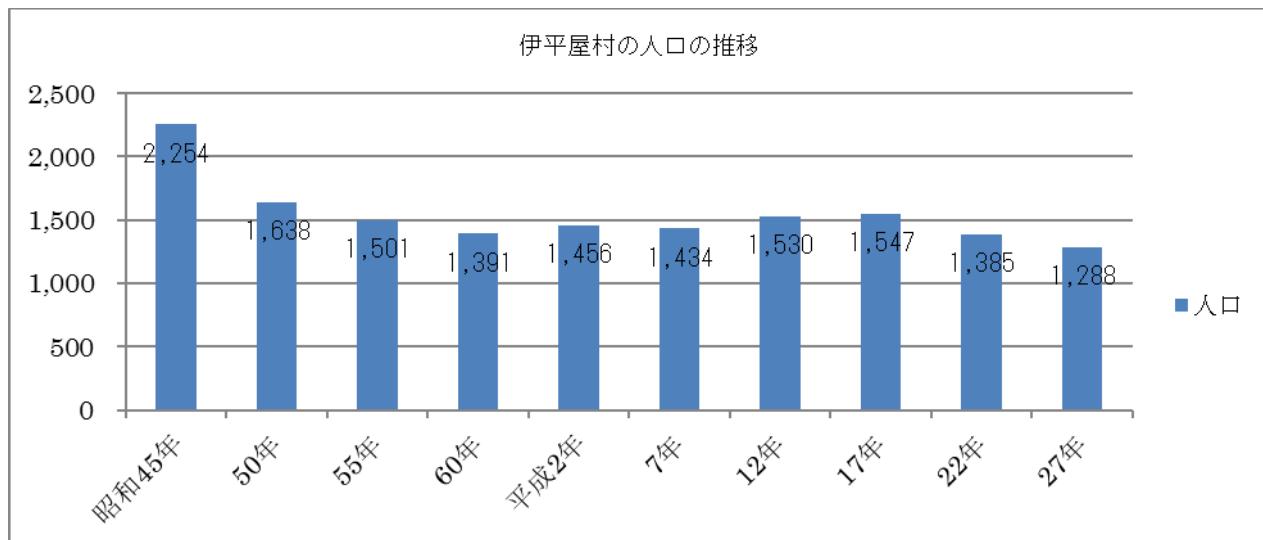
伊平屋村の人口は、昭和30年から50年にかけて急激に島外に流失し、約4,000人いた人口は昭和50年頃には半分以下に減少している。その後、今までの人口動態は、ほぼ横ばいから微減の状態である。

伊平屋村における字別人口

単位：人

項目 字	男性	女性	合計	世帯数
田 名	159	137	296	126
前 泊	129	133	262	114
我 喜 屋	170	155	325	164
島 尻	167	128	295	135
野 甫	42	49	91	47
合 計	667	602	1,269	586

注) 平成29年2月末 資料: 広報いへや

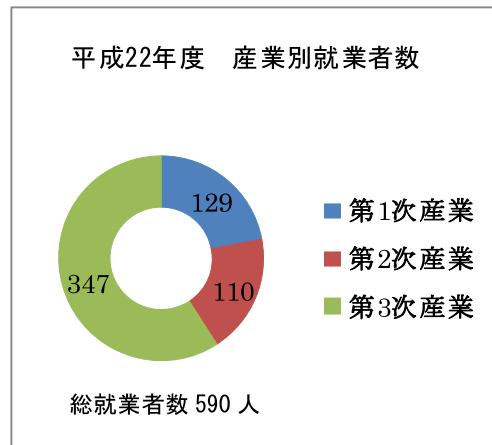


出典：総務省統計局「政府統計の総合窓口(e-Stat)」(<http://www.e-stat.go.jp/>)」注）27年の人口は広報いへやより

### 3) 産業と土地利用

#### (1) 産業

伊平屋村は年間を通じて安定した温暖な気候で、水産業・農業を基幹産業としており、近年は観光客も増加傾向にある。平成22年国勢調査によれば伊平屋村における産業別就業者数は、第3次産業の割合が最も高く約59%を占めており、中でも公務、医療・福祉、教育・学習支援業の就業者数が多くなっている。次いで第1次産業の割合が高く、農業従事者が約16%、漁業従事者が約5.6%となっている。第2次産業は建設業の就業者数が多く、約12%を占めている。



出典：総務省統計局「政府統計の総合窓口(e-Stat)  
(<http://www.e-stat.go.jp/>)」

#### (2) 土地利用

伊平屋村の総面積は2,172haであり、平成18年における伊平屋村の土地利用状況は山林（針葉樹林・天然林・広葉樹林）が1,146ha (52.8%)で最も広域を占め、次いでその他350ha (16.8%)、畑285ha (13.1%)、原野206ha (9.5%)、田123ha (5.7%)、宅地37ha (1.7%)、保安林25ha (1.2%)となっている。



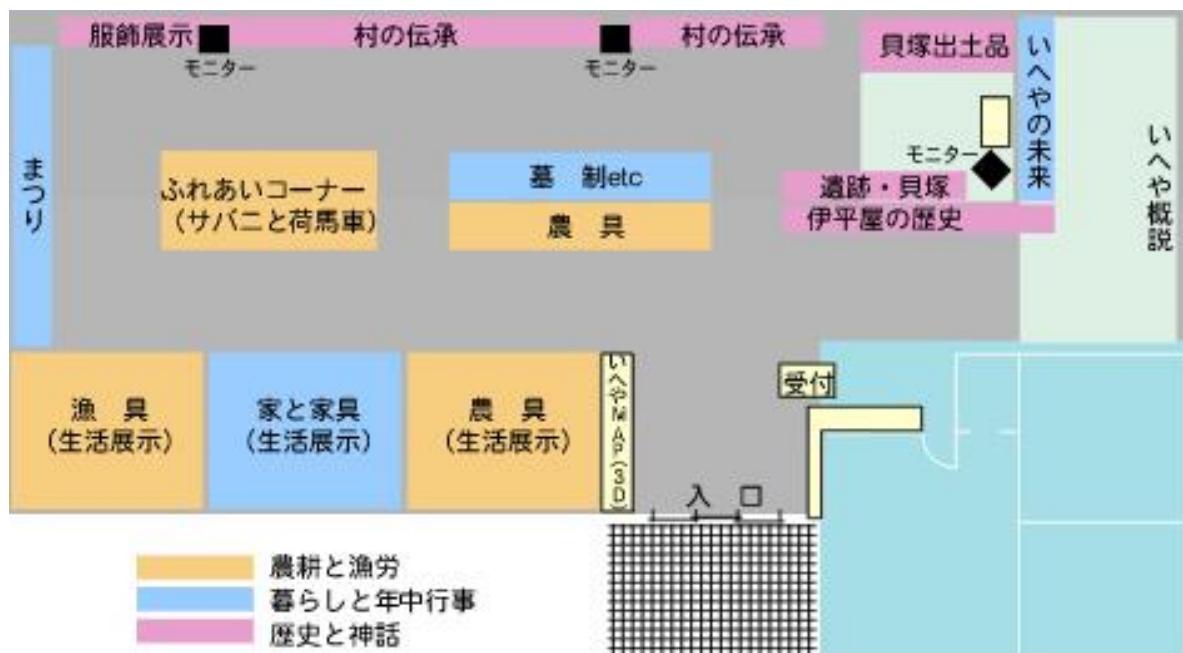
## 2. 伊平屋村歴史民俗資料館の概況

### 1) 展示テーマと収蔵物

当資料館は、<農耕と漁労><暮らしと年中行事><歴史と神話>の三大テーマのもとに、展示が計画されている。とりわけ農具・漁具・生活道具の民具 422 点が収蔵展示されており、またウンジャミ等の年中行事の情報も豊富である。



### 2) 資料館の展示概要



①農耕と漁労



②暮らしと年中行事



③歴史と神話



④収蔵庫内の状況



### 3. 伊平屋島と野甫島の成り立ち

#### 1) 島々の地質・地形等の環境基盤

##### (1) 伊平屋島の構造を形成する付加体（チャート等）

伊平屋島の基盤はチャート（図中の茶色）と砂岩（図中の黄色）の付加体が山地となり、そこから流れ出た礫や砂が沖積地（図中の白）を形成している。この付加体は地球史では10億年にさかのぼる古い地質である。チャートは極めて岩質が硬く急傾斜の地形となり、後岳、タンナ岳の連山や賀陽山や腰岳などの山頂と斜面に広く分布する。一方、砂岩は硬度が低く侵食を受けやすいことから比較的なだらかな地形を呈している。

##### (2) 高島の伊平屋島、低島の野甫島

沖縄の地形は、山地の有無によって高島と低島に大別されている。高島は古生代から新世代古第三紀の古い地質の島で、伊平屋島は高島である。一方、低島は新第三紀の島尻層群泥岩類とそれを覆う第四紀琉球石灰岩の新しい地質の島で、野甫島が低島となる。

水文環境は、伊平屋島は硬いチャートなどの基盤からなる高島なので河川水となり、石灰岩を基盤とした低島の野甫島は地下水を中心としている。

##### (3) 地球史を語るメランジュ

西海岸北部のヤヘー岩近くには、チャートに石灰岩や泥岩など相違する時代の岩石や岩体が混じった、フランス語で「ごちゃ混ぜ」を意味する「メランジュ」が見られ、学術的に価値が高い。

##### (4) 北の吹上砂丘、南の米崎の砂嘴

田名の北部に見られる吹上砂丘は伊平屋島の風環境の厳しさを表している。また、島尻の米崎では、風環境と沿岸流が長大な砂嘴を形成している。これらの地形は伊平屋島の地質や地形を特徴づけているもので、沖縄県内でもジオ資源として貴重な場所である。

##### (5) 田名北部の海域で発見された熱水鉱床

2014年12月に伊平屋島沖の海底で国内最大の熱水鉱床が確認された。また、2016年2月には伊平屋島から北西約50kmの田名サイトで同様な熱水鉱床を発見し、採掘した鉱石から銅や鉛、亜鉛、微量の金や銀など5種類が確認されている。伊平屋島海域には、貴重な資源であるレアメタルが分布しており、今後の採掘や活用が期待されている。

#### 2) 環境基盤と集落

##### (1) 海上に際立つ高島の伊平屋島

伊平屋島の最高峰の賀陽山293.9m、田名のタンナ岳236m、腰岳227.3m、後岳230.7m、と山や岳が、連山となって特徴的な島の形態を呈している。これらの山並みは海上からも際立ち、沖縄本島北部や与論島などから伊平屋島を遠望することができる。同時に、伊平屋島の山頂からは奄美群島や沖縄本島を遠望できるなど、高島としての地形的特性を備えたグスクや遠目番、火立て屋なども立地している。

##### (2) 沖積地に立地する伊平屋島の集落や田畠

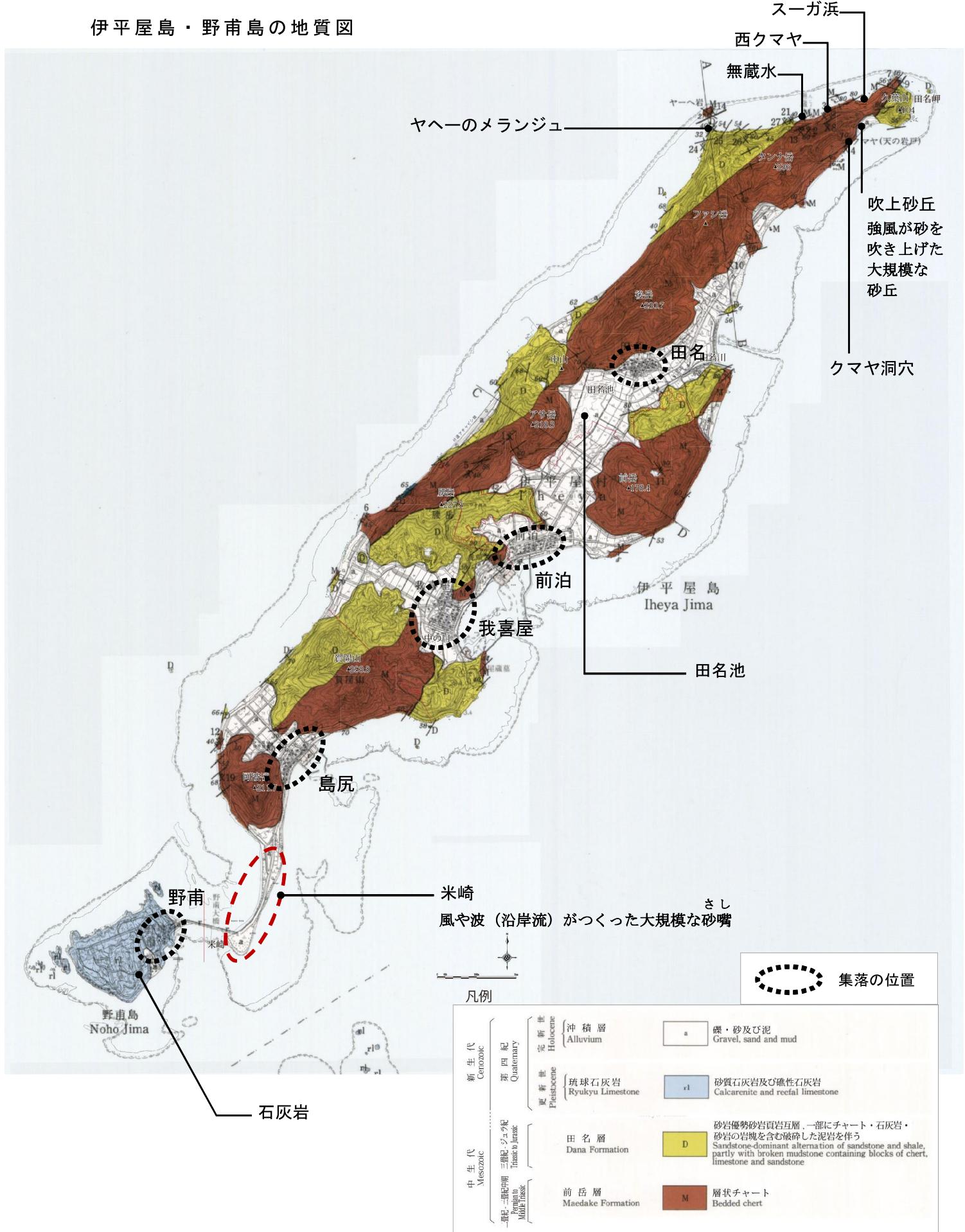
###### 島の東側沖積地に立地する4集落

- ・田名：田名島の最北端、後岳を背に田名グムイと水田が南に開ける、南向きの斜面地集落
- ・前泊：伊平屋島のほぼ中央、フェリー発着の前泊港の東側、海沿いの平坦地の集落
- ・我喜屋：賀陽山と腰岳に挟まれた沖積地で、西側背後に田畠、東海岸沿いに移動拡大した集落
- ・島尻：賀陽山、阿波岳に挟まれた沖積低地の東海岸沿いに面する集落

##### (3) 石灰岩を基盤とする野甫島

野甫島は、面積約1.08km<sup>2</sup>、海岸延長4.82km、最も高い標高は43mの石灰岩から成る低島である。田畠は西側の台地に広がり、集落はグンサナ森の東側で海沿いに分布する。

## 伊平屋島・野甫島の地質図



出典：氏家 宏（2000）5万分の1地質図幅「伊平屋島及び伊是名島」。地質調査所（一部加筆）

### 3) 島を取り巻くサンゴ礁と海名

#### (1) 陸地とサンゴ礁の内側が島の生活圏

伊平屋島や野甫島はサンゴ礁に囲まれ、古くから島の生活と密接な関わりを持ってきたことから、サンゴ礁には地形や漁場などと関係した名前が付けられている。伊平屋島と野甫島の生活圏はサンゴ礁域と密接に関わっており、海名が付けられたサンゴ礁域は島々の歴史文化を支えてきた環境基盤として欠くことのできない場所である。

#### (2) 海名の意味

海名にはサンゴ礁が切れている場所で船が出入りできるクチ、追い込み漁をするときの海中の溝につけた名前、海中の微地形を表す名前、干潮時に陸地化するワタンジなどをはじめ、多くの海名が付けられている。

とりわけ島尻の海名は他集落と比較してサンゴ礁の微地形に密度細かく付けられており、漁業が盛んであることがうかがえる。

#### (3) 交易に重要なサンゴ礁の切れ目、クチ

内陸から河川が流出する場所では、サンゴ礁に切れ目ができている。海名ではクチと呼ばれ、代表的なものに田名の明石口（アカシクチ）や那覇口（ナファグチ）、島尻の大口（ウフグチ）やヤータグチなどがある。

島尻のヤータグチは賀陽グスクの西側に位置し、グスクとの関連が指摘されている。一方、田名の明石口は、田名川の水が明石港から海に流出し水路となって明石口に至る。このクチと水路、港が交易船の出入りする場所となっていた。「伝説遺跡」では、この明石港は唐船も入港し貿易港として栄えていた時期があると書かれている。また、元禄国絵図では、島尻の港から硫黄鳥島と本部、本部から那覇に航路が描かれている。

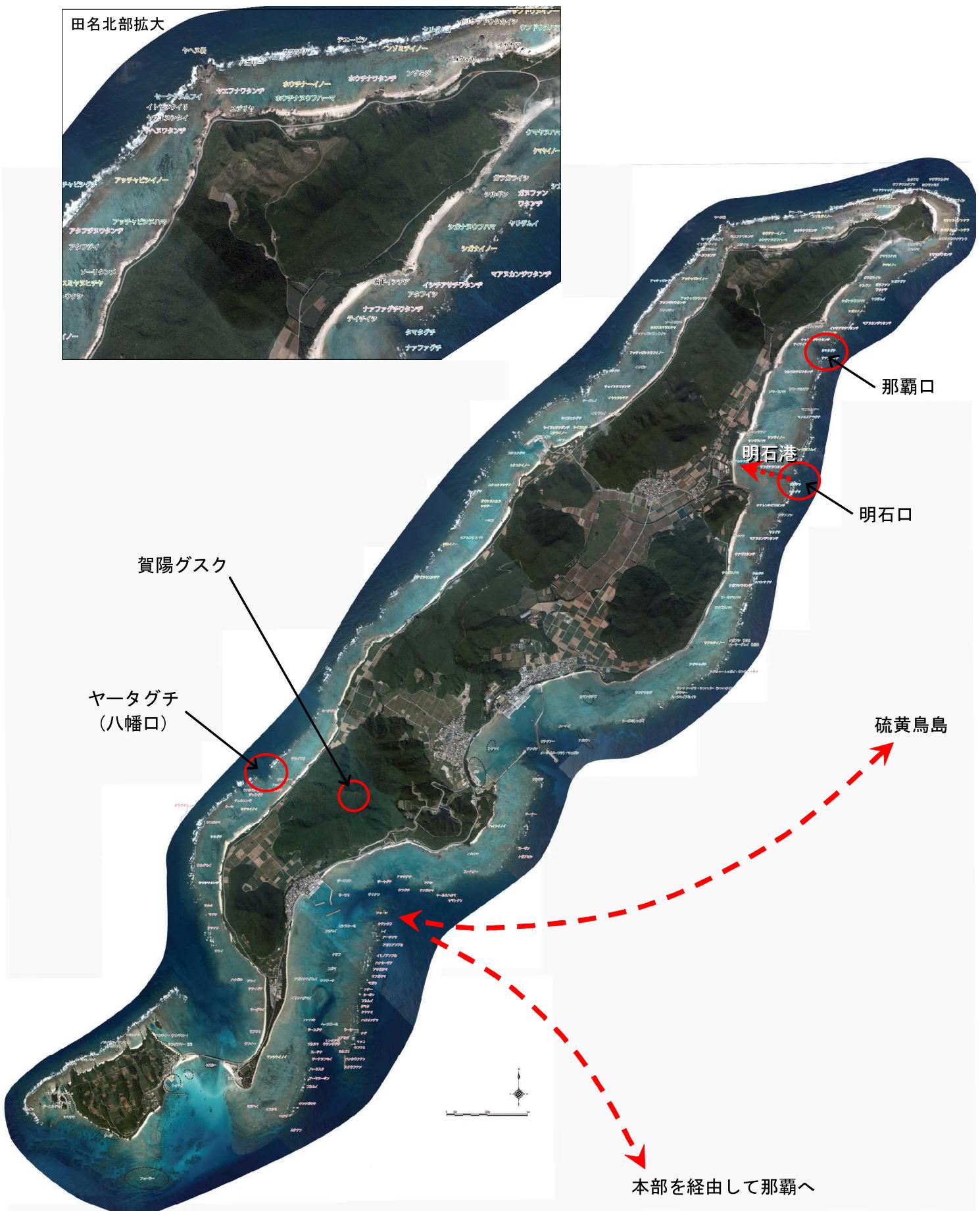
東南アジアとの交易時代には硫黄が輸出されており、その際の航路として島尻の港も重要な機能を果たしていたことが推測できる。

元禄国絵図（1697年から作成～1702年に完成）



図面上の航路に一部赤破線加筆

## 海名図



#### 4) 土地の履歴を伝える原名（ハル名）

(1) 田畠や集落につけられた里のハル名

各集落が利用してきた土地には小字名とハル名が付けられている。ハル名は地形の特徴や土地利用、歴史を伝える事象などの情報を持っており、土地の履歴を知ることもできる文化財と言われている。

## (2) 沖積低地につけられた伊平屋島のハル名

伊平屋島のハル名が付けられた場所は、専ら人々が住み着いた場所と田畠に利用してきた場所で、山地を除いた沖積低地に集中している。山地のほとんどは王府時代に杣山（ソマヤマ）として管理されて樹木は禁伐となっていた。そのため、地元住民が利用できない場所であったことから、ハル名がほとんど付いていない。

(3) ハル名の密度が高い島尻、密度の低い我喜屋

5集落の中で、島尻集落は最もハル名の分布密度が高い。一方、田名北部、前泊、我喜屋はハル名の密度が薄く、田名はその中間である。野甫島は島全体にハル名が付けられ、伊平屋島との相違がみられる。

#### (4) ハル名が土地から消えた場所

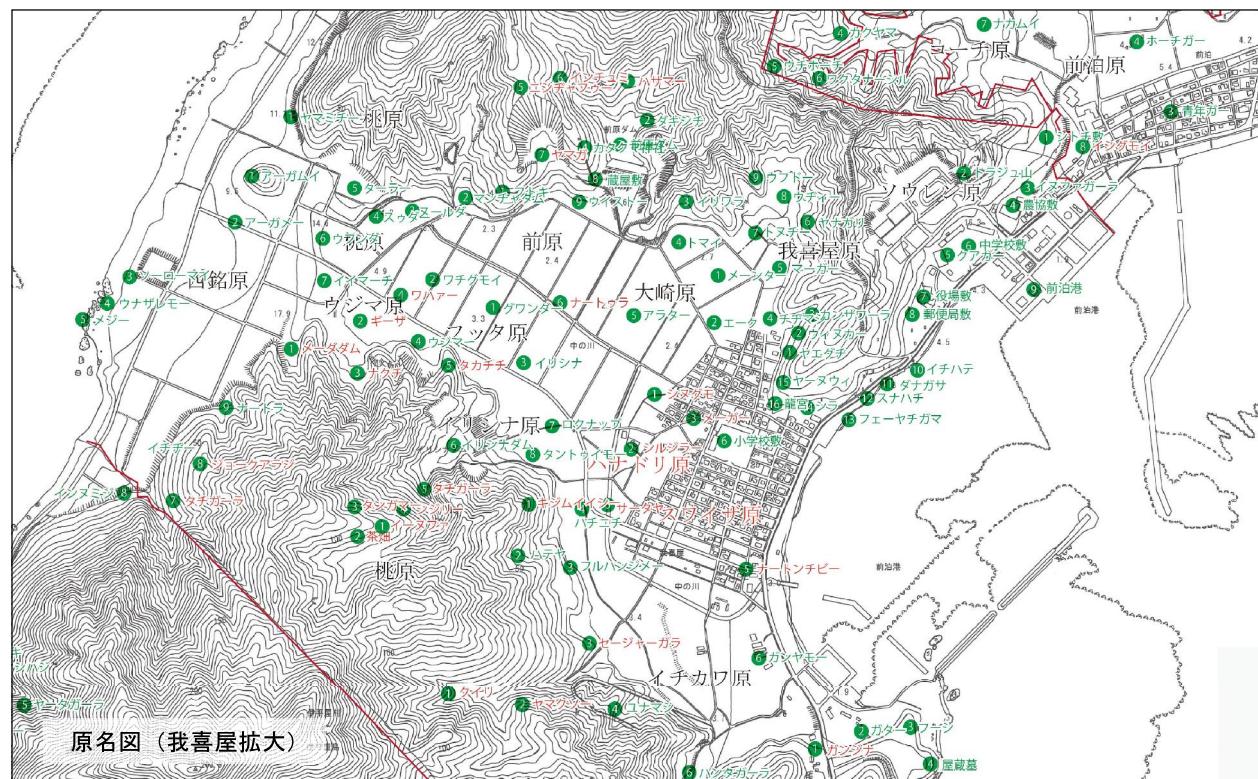
農地改良をはじめ、ダムや道路等の整備によって土地が整地され、昔のハル名の意味を土地から読み取ることが難しくなっている。とりわけ、田名から前泊にかけた田畠、我喜屋や島尻など伊平屋島のハル名は、土地の細かな情報を失っている場所が多い。

### (5) ハル名が土地に残っている野甫島

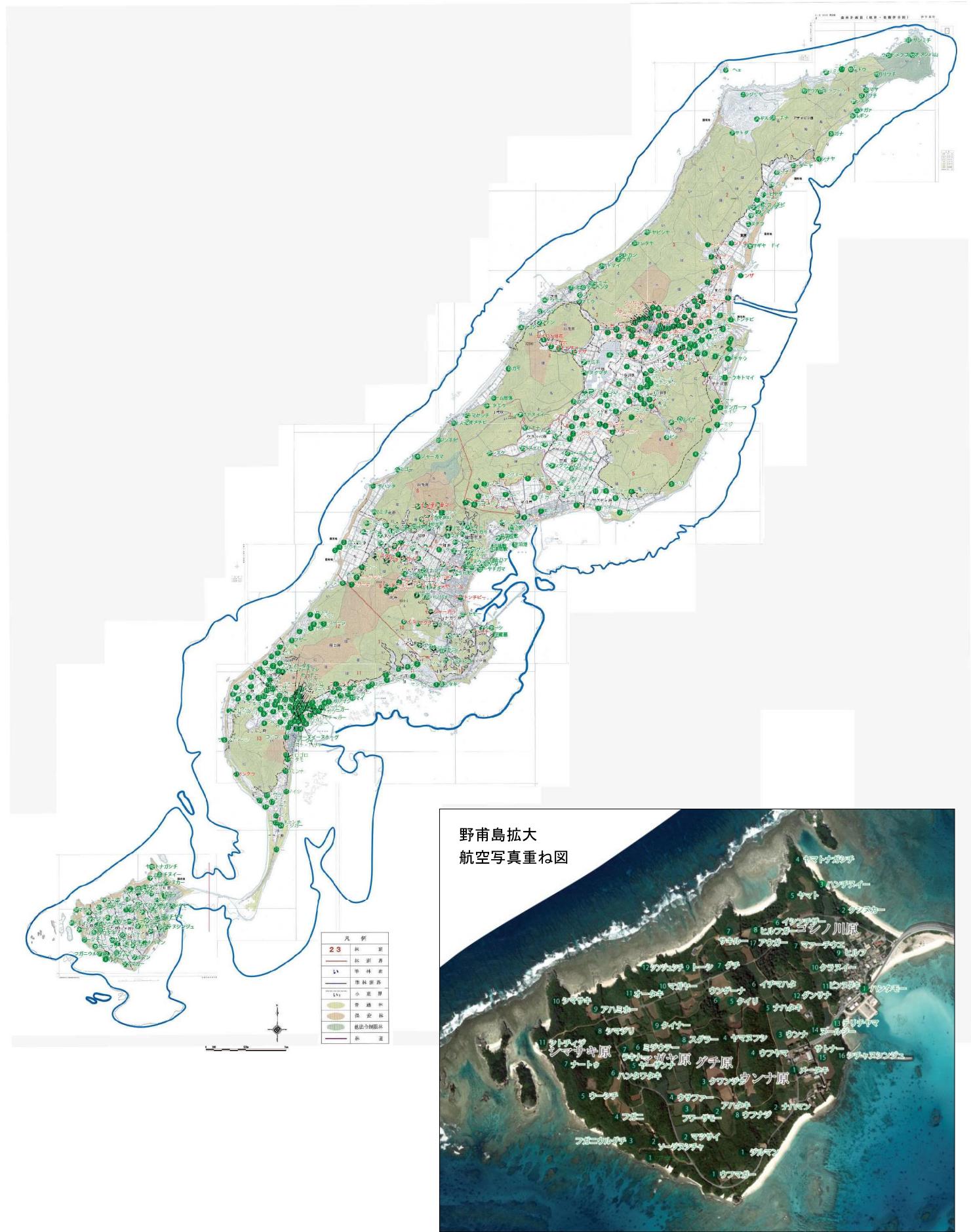
杣山が無かった野甫島は島全体が土地利用されており、全体に散らばったハル名分布からも野甫島の特徴的な土地利用状況を判読できる。現在、野甫島は大規模な土地改良がなされていないために、土地状況とハル名の関係が保持されている。

#### (6) 集落移動などを読み解く我喜屋のハル名

我喜屋のハル名には、ウフンダ、蔵屋敷、ウイストー、トマイなど、集落の発祥や移動、屋蔵大主の屋敷跡、船が入っていた場所などを示すハル名がある。このようなハル名は伊平屋島や野甫島にもあり、多くの場合伝説と関係している。



## 原名図



## 4. 文化財の概況

### 1) 指定文化財の概況

伊平屋村の指定文化財は以下の 11箇所である。村指定の田名城は、県指定に向けて現在申請中である。

指定文化財一覧表

No.	指定	種 別	名 称	所 在	指定年月日
1	国	天然記念物	伊平屋島の念頭平松	田名	平成 28. 3. 1
2	県	史跡	田名城（ウッカー城）	田名	（申請中）
3	県	史跡	久里原貝塚	前泊久里原	昭和 57. 3. 4
4	県	有形民俗文化財	伊平屋村我喜屋の神あしあげ	我喜屋 84-2	昭和 52. 7. 11
5	県	有形民俗文化財	伊平屋村島尻の神あしあげ	島尻 39	昭和 52. 7. 11
6	県	天然記念物	田名のクバ山	田名	昭和 33. 1. 17
7	県	天然記念物	くまや洞窟	田名	昭和 33. 1. 17
8	村	史跡	下の墓（しちやぬしんじゅ）	野甫 193	平成 24. 3. 22
9	村	史跡	御産土井戸（うふまーがー）	野甫 857-1	平成 21. 3. 18
10	村	史跡	後ぬ井泉（くしみかー）	野甫 104	平成 21. 3. 18
11	村	名勝	無藏水（んぞみず）	田名 2598-123	平成 21. 3. 18



伊平屋島の念頭平松



田名城



久里原貝塚



我喜屋の神アシアゲ



島尻の神アシアゲ



クバ山



くまや洞穴



下の墓



御産土井戸

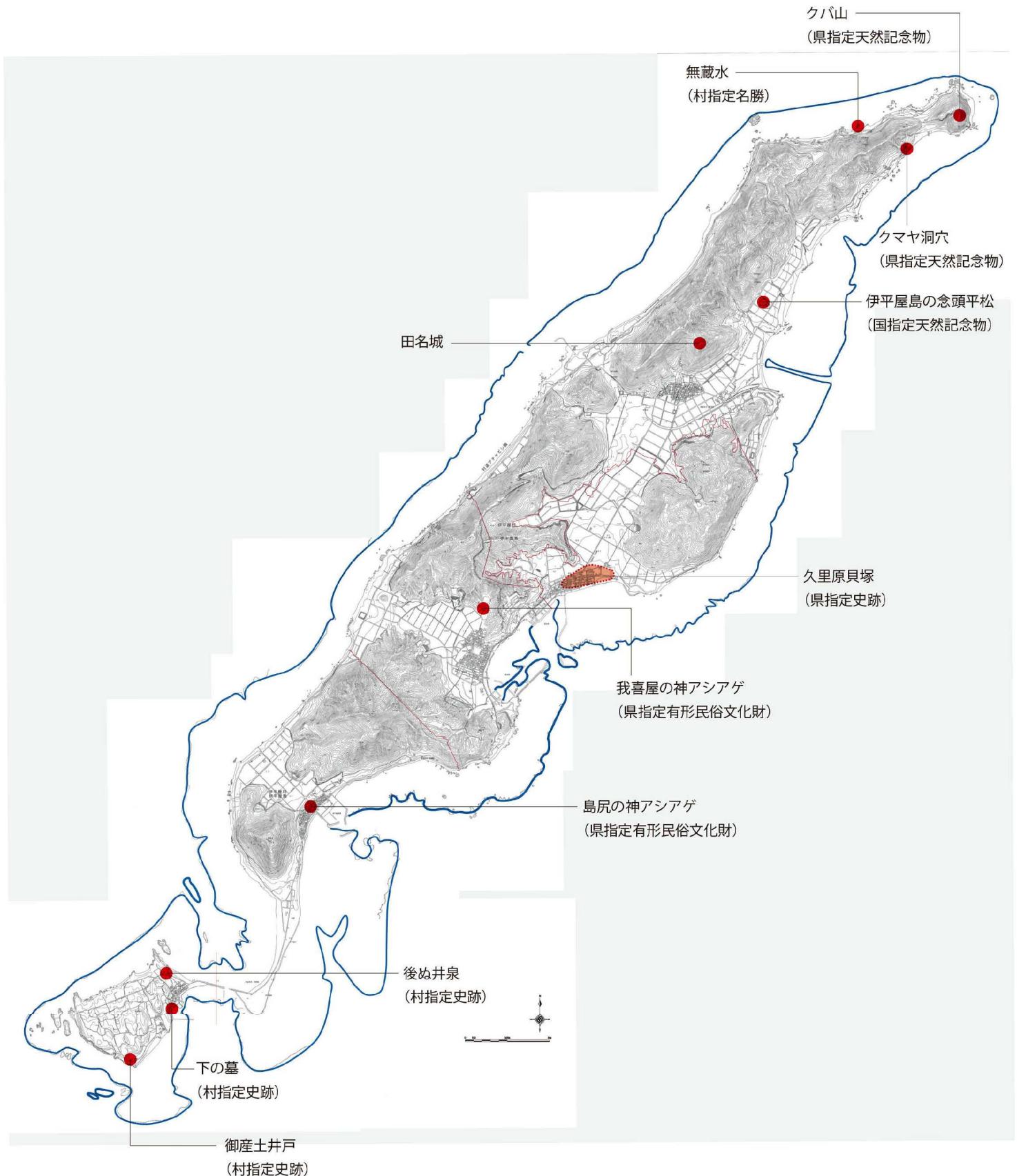


後ぬ井泉



無藏水

## 指定文化財位置図



## 2) 伊平屋村伝説遺跡調査の概要（以下は「伊平屋村伝説遺跡」からの一部抜粋）

### (1) 記録保存の趣旨

沖縄の島々に遠い先祖から伝えられてきた民話は、貴重な文化遺産である。特に伊平屋村は本土文化圏と琉球文化圏のかけ橋となる位置にあり、さらに尚巴志王及び尚円王にかかる地域であることから他の地域では替え難い民話が伝えられている。しかし、その貴重な伊平屋村の民話も現在では限られた高齢者だけの伝承にとどまっている。その民話を記録保存することによって、消滅を防止することは村の文化行政の緊急の課題となっていた。

そこで、私達は民話編の解説で述べたように、昭和 55 (1980) 年及び昭和 60 (1985) 年に伊平屋村において民話調査を行い、さらに、平成期に入ても調査を継続し 177 名の話者から 829 話を聴取した。そのうち、伊平屋村に関する伝説は、120 話型、352 話であり、予想通り豊富な伝説が伝えられていた。しかし、その一つひとつが貴重な伝説でありながら、伝説に関する場所や遺跡が特定の話者しか分からず、遺跡やその場所があいまいになっているところが少なくなかった。伝えている人達が事実あったこと信じて伝えられる伝説は、それが事実であることを証明となる遺跡と一体となって伝えられている。したがって、伝説の遺跡が不明になることは、伝説そのものを消失させることになってしまることが多い。そこで、私達は、昭和期の民話調査で得た資料を基に、平成 9 (1997) 年～10 (1998) 年及び平成 13 (2001) 年に伊平屋村の伝説遺跡の調査を行った。

### (2) 掲載伝説遺跡概要

ここに掲載した伝説遺跡は、田名が 41 箇所、前泊 7 箇所、我喜屋 31 箇所、島尻 14 箇所、野甫 17 箇所の合計 110 箇所である。ただし、中には古くからある墓や井泉であつて、当然伝説が伝えられているような遺跡でありながら、伝説を聴取できなかつたものもあつたが、あえてそうした遺跡についても掲載することにした。

**遺跡番号 4 節屋洞窟**  
【くまやがま】  
伊平屋村字田名 2598-1 番地



**伝説遺跡概要**

島の東北部の海岸近くにあり、入口の前に大きな岩があるため、一人がようやく通れる広さだが、内部は、高さが 4.5 メートルもある大きな洞窟である（天の岩戸伝説）が伝わっており、現代でも多数の参拝者が訪れる。その反対側には、西瀬戸洞窟があり、両方通ることができるようになっていて、大昔七束の松明を照らして通じ抜けたが、その時に七匹の海蛇を捕まえたとの伝説がある。節屋洞窟内には左右に穴が開いているが、現在では西瀬戸洞窟に通り抜けることはできない。

昭和 33 (1958) 年に県の天然記念物に指定されている。

**関連伝説**

「節屋洞窟」

天照大御神が葦屋洞窟に隠れてしまつて、世の中は暗くなり闇になった。神々たちは、「何とかして世を明るくしないといけない」と葦屋の下の平たい岩の上で大騒ぎして病つた。葦屋に籠もっていた天照大御神は、その騒ぎしい騒ぎを聞いて葦屋の石を開けて覗くと、外で待っていた神々が天照大御神を外に出したので、世の中が明るくなった。この天照大御神が葦屋洞窟に隠し、み永麗媛は、無数の岩の洞窟があると云ふ說を信じて、るくこう。

田名 伊礼孝子 (1911 - 明治 44 年生)

関連話・民話編 (P5)(P6)(P10)(P11)

**遺跡番号 13 屋蔵大主の屋敷跡**  
【やぐらうふすーのやしきあと】  
伊平屋村字我喜屋 1389 番地付近



**伝説遺跡概要**

片瀬神社を祀っている片瀬森の山中に位處し、我喜屋部落の祖先が住み、屋蔵大主の屋敷と多くの蔵があつたと言われている。現在では、石垣がわずかに残るばかりである。屋敷跡とも、片瀬跡とも呼ばれている。また別の話では、屋蔵大主は我喜屋の西側から片瀬神社の下に住み、それから、八重山（西宮）に移り住んだともいわれる。

**関連伝説**

「屋蔵大主」

我喜屋に尚巴志王の祖父にあたる歟川大主の墓がある。歫川大主は屋蔵大主とも言って我喜屋の上里で生活していた。屋蔵大主が住む上里の近辺は森で、祀る片瀬神社がある山腰から少し登った所に、屋蔵屋敷と屋蔵の倉庫があった。

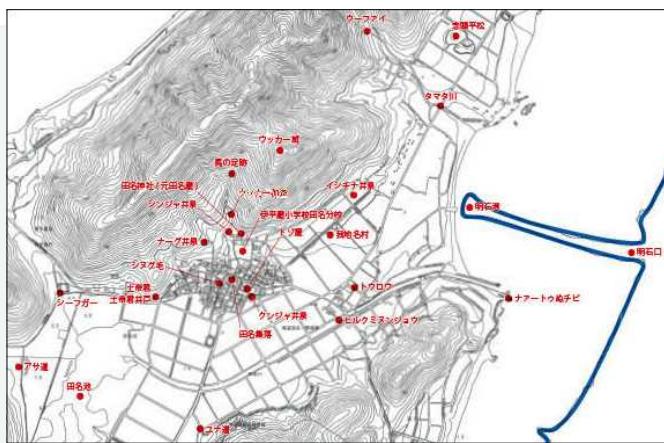
我喜屋 前田ナツ (1916 - 大正 5 年生)  
関連話・民話編 (P62)(P64)(P65)(P67)

掲載された伝説遺跡を内容によって分類し、多い順に配列すると、ウンジャミの祭場や神社などの祭祀遺跡が 28 箇所、村建てに欠かせない井泉が 23 箇所、田名、我喜屋の古い集落遺跡が 12 箇所、無蔵水や虎頭岩など伝説が寄せられている巨岩が 11 箇所、古い墓などの遺跡や、地名にまつわる伝説遺跡がそれぞれ 7 箇所であった。さらに籠屋洞窟など、洞窟に関する遺跡が 6 箇所、山や港に関する伝説遺跡がそれぞれ 3 箇所、旧家の遺跡や池にまつわる伝説遺跡が、それぞれ 2 箇所であった。

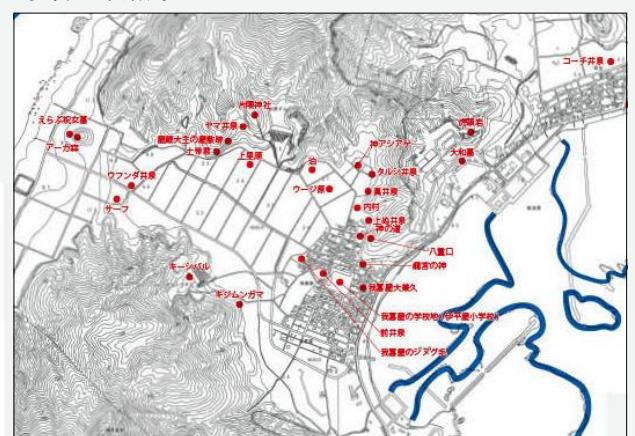
その他に、島、道、暗渠、樹木、防風林、学校跡などの伝説遺跡がある。

### 伊平屋村伝説遺跡の分布図

田名集落周辺



我喜屋集落周辺



### 3) 未指定文化財の概況

#### (1) リスト化された未指定文化財 180 件

伊平屋村の文化財は、過去に教育委員会が取りまとめてきた村内文化財リストと伊平屋村伝説遺跡の報告書にまとめられた文化財がある。これらの文化財と悉皆調査段階で新たに含めた各集落における未指定文化財は、田名 62、前泊 14、我喜屋 50、島尻 28、野甫 26、総計 180 である。

##### 田名の文化財



シーフガー

土帝君

魔除け獅子

イシチナ井泉

##### 前泊の文化財



シヌグ堂

鏡石

神の道

内村



伊良部祝女墓

ウフンダ井泉

ヤマ井泉

我喜屋のシヌグ毛

##### 島尻の文化財



フカミナ

火立て屋

シヌグ毛

下之井泉

##### 野甫の文化財



ミルク神, グンサン森

チジ石

後ぬ井泉

ヒルフ井泉

## (2) 集落内の伝統的な屋敷 20 か所

悉皆調査で伝統的な屋敷構造や家屋を保持していると判断した家屋敷は、田名3、前泊3、我喜屋4、島尻6、野甫4の総計20か所である。

(3) 景観計画で調査した石垣 (8,025m) や屋敷林 (8,890m)

平成24年の景観計画で調査した屋敷周りのサンゴ石(フェーラ石)や野甫島の石垣は、田名745m、前泊990m、我喜屋3,970m、島尻1,380m、野甫940mの総計8,025mである。一方、生垣や屋敷林の延長は田名2,060m、前泊2,780m、我喜屋2,770m、島尻590m、野甫690mの総計8,890mである。

前泊集落



我喜屋村落



島尻集落

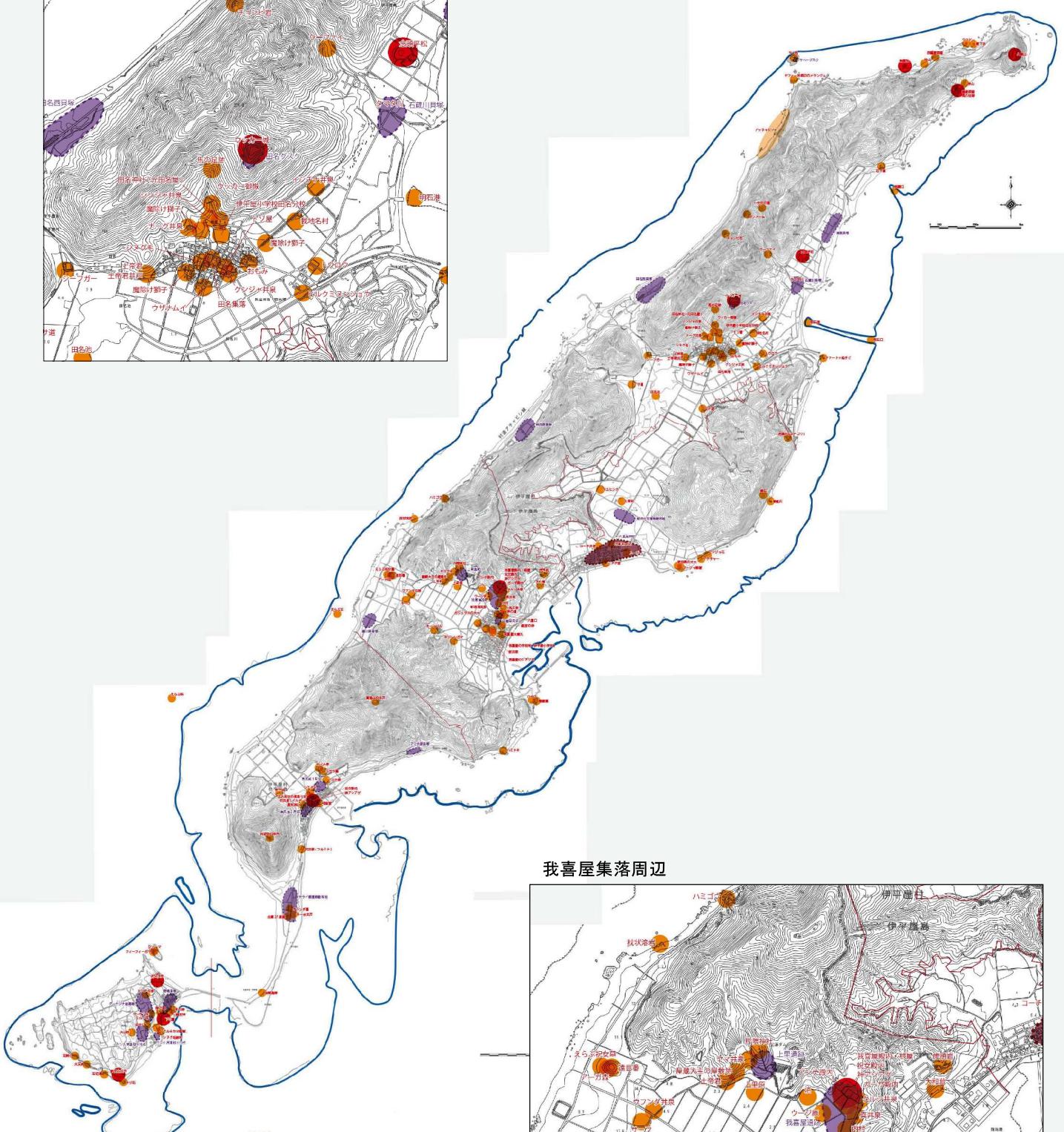
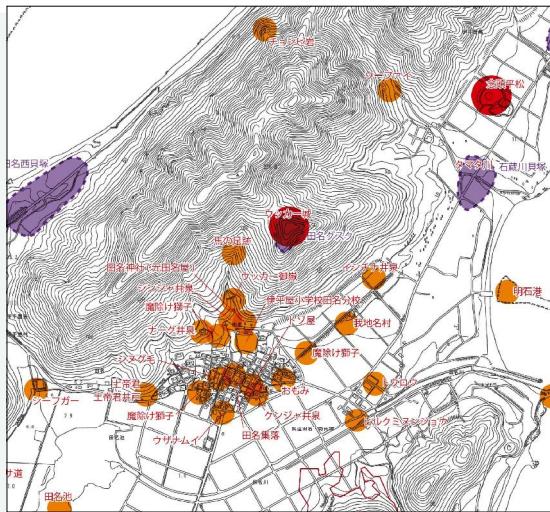


野甫集落

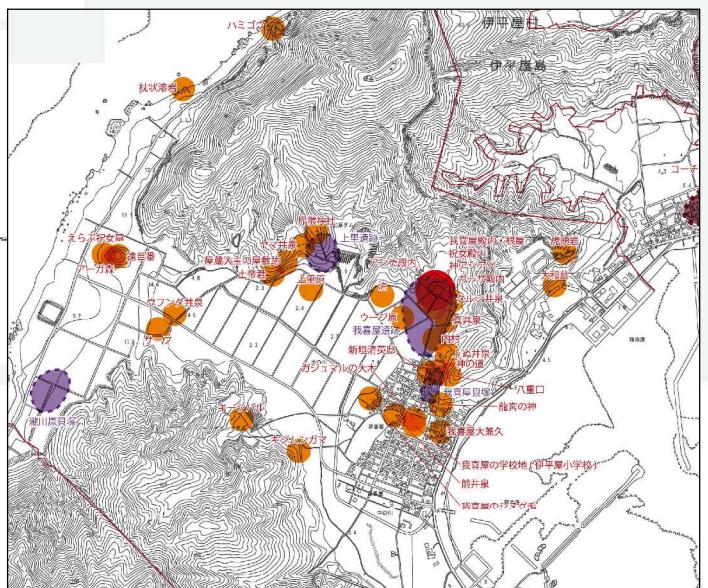


## 指定・未指定文化財の分布図

田名集落周辺

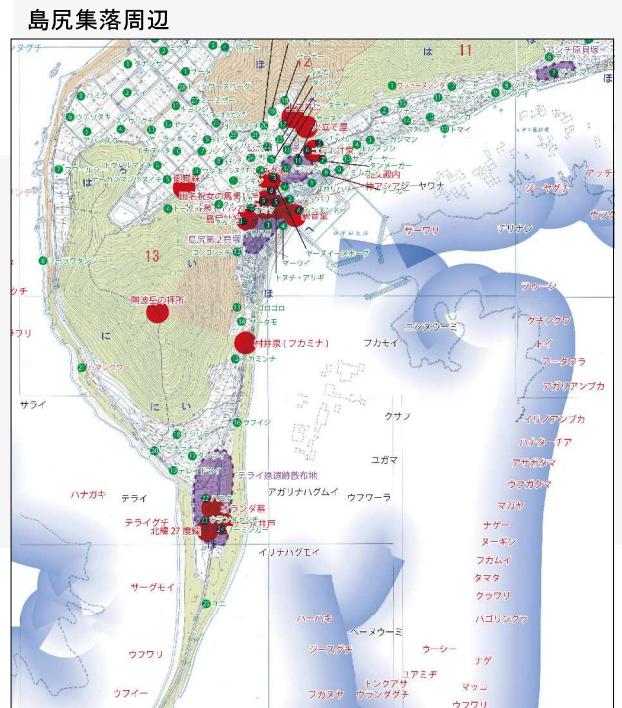
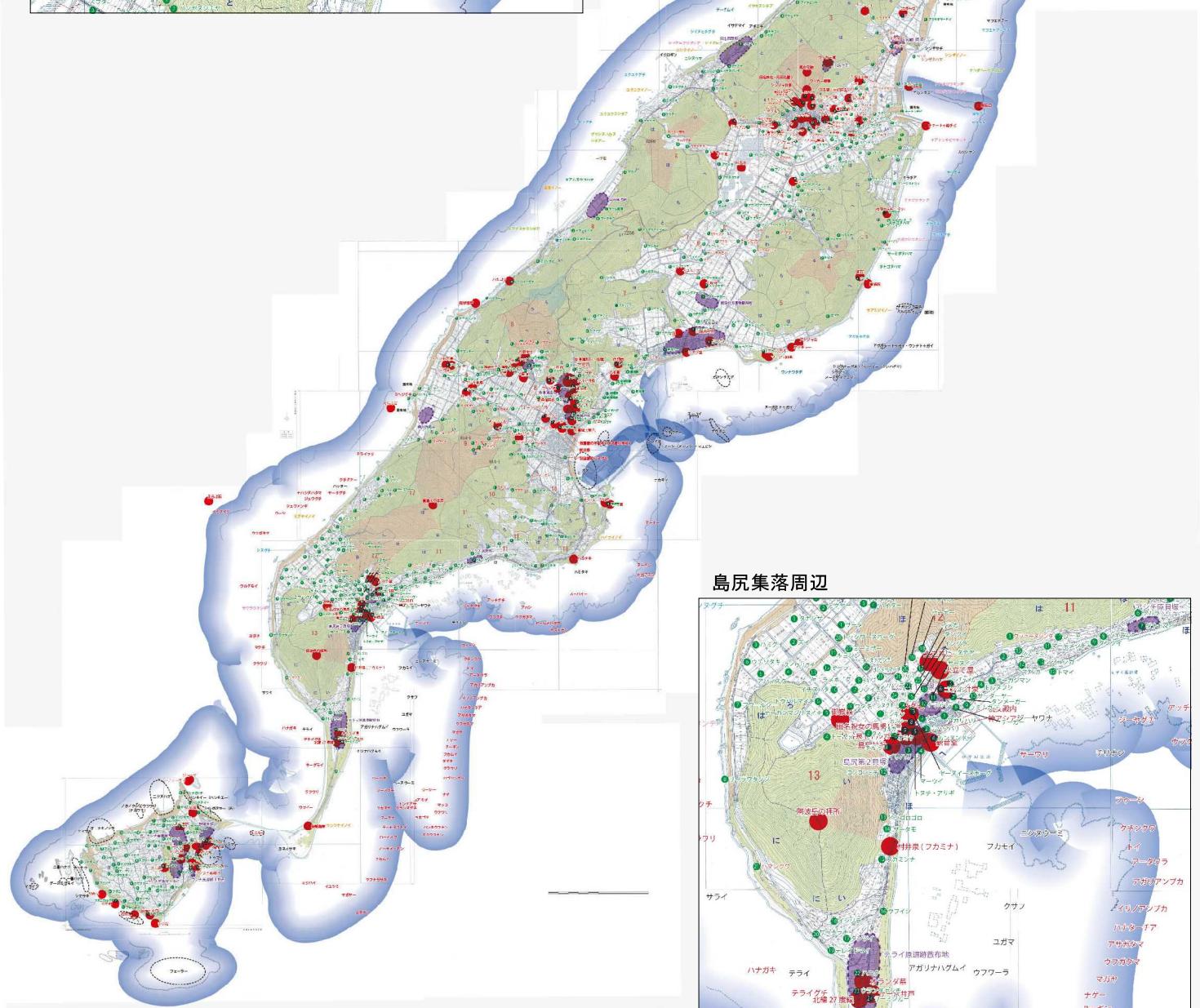
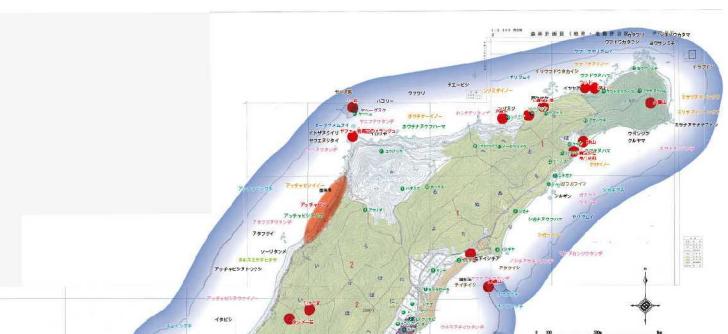
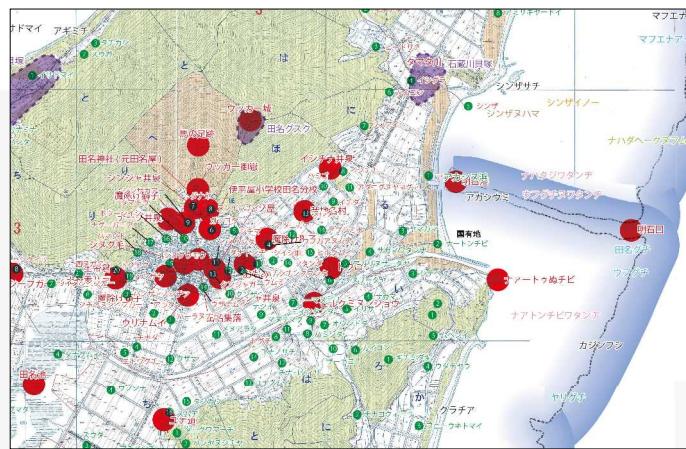


我喜屋集落周辺



## 文化財分布総括図

田名集落周辺



## 5. 歴史変遷からみた歴史文化の特徴

### 1) 貝塚時代の遺跡

#### (1) 伊平屋島

##### ①伊平屋島東海岸に分布する貝塚時代前期の遺跡

伊平屋村の遺跡調査結果から、伊平屋島に於ける貝塚時代を代表する遺跡は久里原貝塚である。前期の貝塚遺跡は全て東海岸に分布しており、田名で2箇所、前泊で2箇所、島尻で1箇所である。

##### ②久里原貝塚

貝塚人が生活を営む上での生産の場を含めた環境は、生活用水の確保や生産（狩猟・漁労など）の場である山や海を近くにひかえていることなどである。

本貝塚は標高5～6mの沖積砂丘地に立地し、背後には狩猟の場である比較的深い山をひかえ、前面の海はリーフが発達し恰好の漁場となっている。また、貝塚の北側から東側にかけて小川が流れしており、前記した立地条件を十分に満たしている。

伊平屋島は沖縄本島と奄美諸島の中間に位置しており、当貝塚から条痕文土器や奄美の土器（搬入品）、石斧；1点が出土し、沖縄から奄美・九州への文化伝播経路として伊平屋をぬきにしては考えられない。

##### ③貝塚時代後期の遺跡

貝塚時代後期に限った遺跡は、西海岸に3箇所、東海岸では我喜屋貝塚と島尻のアシチ原貝塚の4箇所が確認されている。そのうち、我喜屋貝塚は現在の我喜屋集落の内村周辺である。

#### (2) 野甫島

##### ①野甫島東部の4箇所

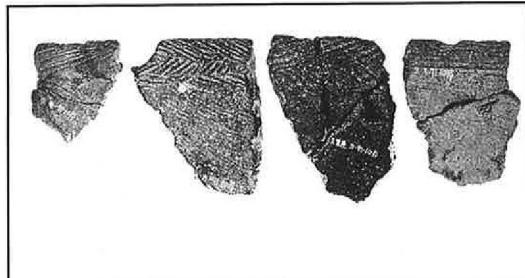
石灰岩を基盤とした野甫島では、貝塚時代の遺跡が4箇所確認されている。いずれも野甫島の東側に分布するが、グーサンナ森遺跡は内陸の丘陵上に位置する。野甫島で貝塚時代前期後期の遺物が確認された野甫貝塚は、現在の野甫島の集落周辺である。

##### ②貝塚時代からグスク時代までつながる遺跡

ウンナ原AとBの2箇所の遺跡は、貝塚時代前期・後期とグスク時代にわたる遺物が確認されている。

久里原貝塚の出土品

条痕文土器 約4000～4500年前

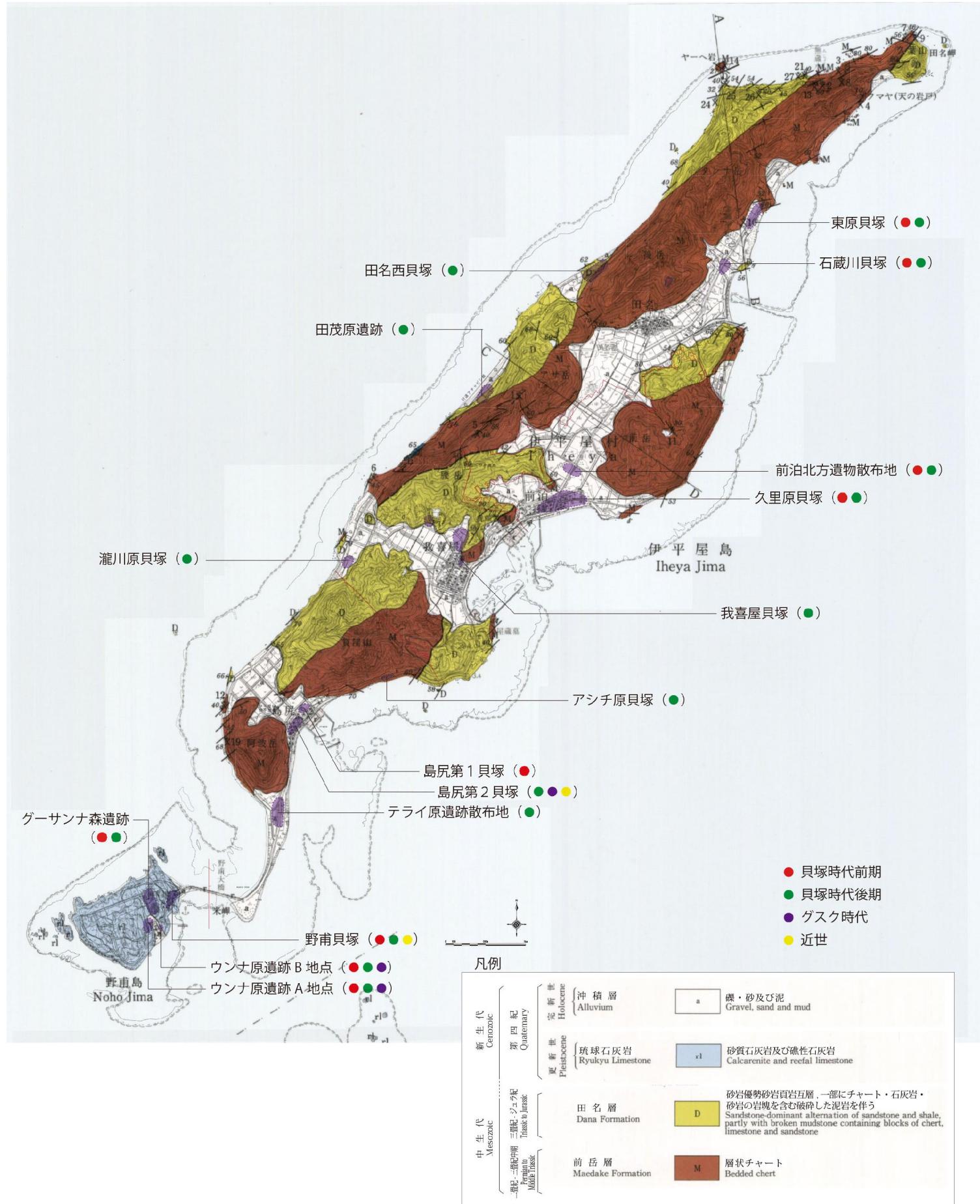


大山式土器 約3000年前



出典：伊平屋村 前泊字誌

## 貝塚時代の遺跡分布図



出典：氏家 宏（2000）5万分の1地質図幅「伊平屋島及び伊是名島」。地質調査所（一部加筆）

## 2) グスク時代の遺跡

伊平屋島には周知の2グスクに対して、島尻の賀陽山と我喜屋の腰岳に新たに2グスクが確認された。伊平屋島の周囲は約32km、面積20.2km<sup>2</sup>の小さな島に、山頂に3箇所、海にせり出して1箇所のグスクを持つ。とりわけ、腰岳山頂のグスクと山裾の上里遺跡については、伝説などから第一尚氏の祖である屋蔵大主との関連性が高いと推測される。

また、石灰岩を基盤とした野甫島には貝塚時代からグスク時代までの痕跡を残すウンナ原遺跡がある。この遺跡近くは大山嶺やシヌグ毛の跡がある場所である。

### (1) 周知のグスク

田名には集落北側の田名城と西海岸の独立した岩にヤヘーグスクが築城され、周知の遺跡である。田名城は県指定史跡に向けた手続き中である。

田名城

#### ①田名城

田名集落北側の山頂に築かれたグスクである。グスクに至る山道には監視用の曲輪（くるわ）が無数にあり、グスク城門は武者隠しのような防御機能を備えている。山頂の石積みに囲まれ井戸がある。グスクの東側は高い石積みが築かれ、北東側尾根には堀切（ほりきり）や土橋が施されている。



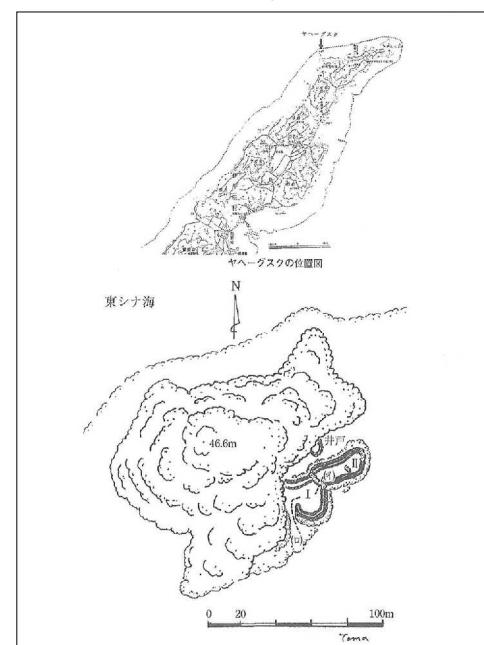
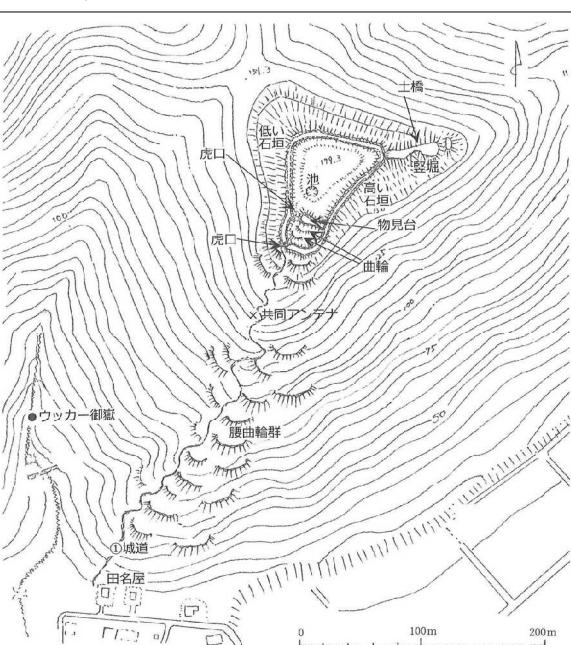
ヤヘーグスク

#### ②ヤヘーグスク

伊平屋島北西海岸の海に突出する岩礁に築かれたグスクで、海岸から約200m沖合にあり満潮時には渡ることができない。グスクは岩礁頂部の東側裾の岩盤上に1~1.7m程度の石垣が築かれている。築城年代は不明だが、グスク時代に属する遺跡と考えられている。

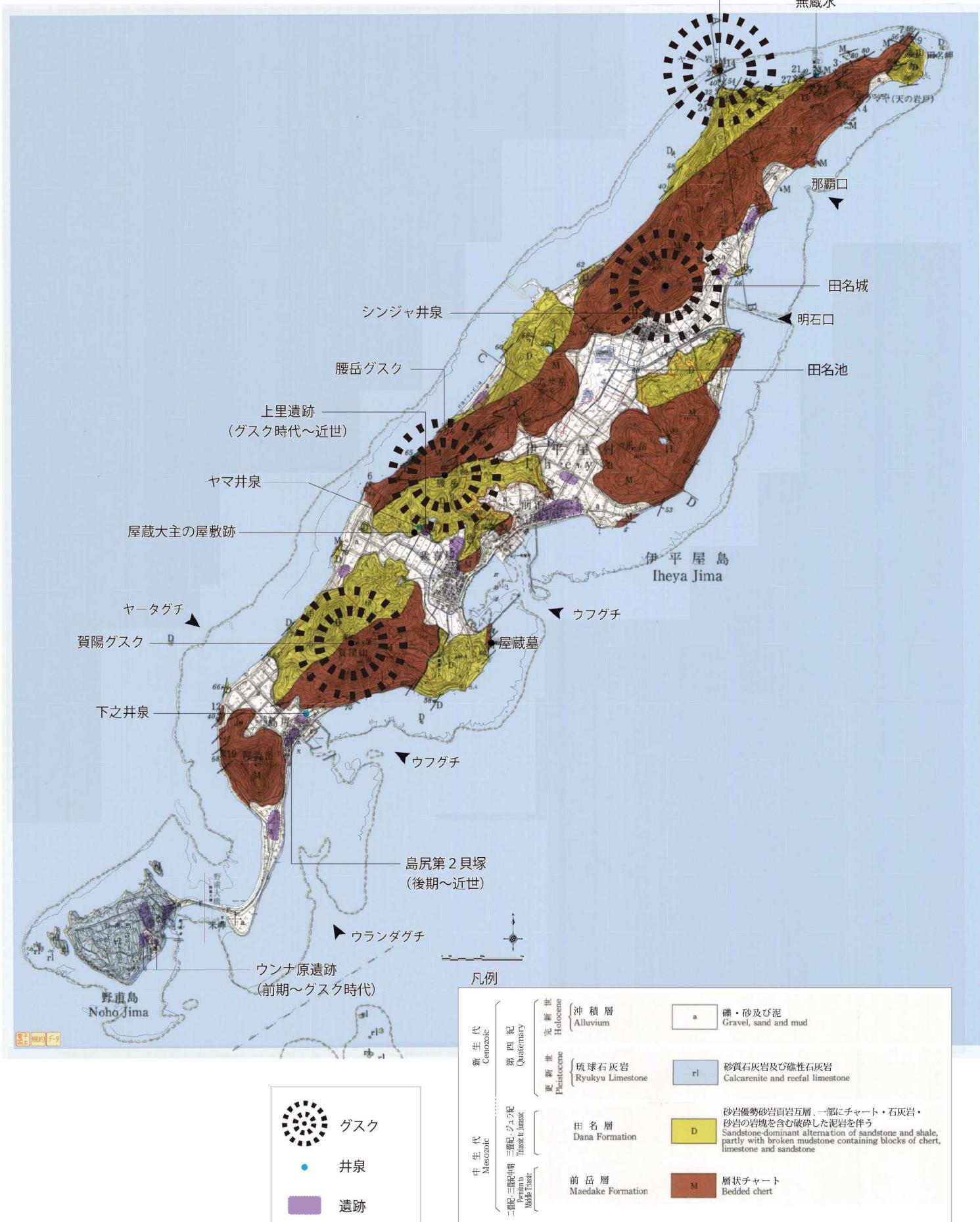


ヤヘーグスクの位置と縄張図



出典：琉球グスク研究（當眞嗣一 2012年12月）

## グスク時代の遺跡分布図



出典：氏家 宏（2000）5万分の1地質図幅「伊平屋島及び伊是名島」。地質調査所（一部加筆）

## (2) 賀陽山山頂の賀陽グスク

これらのグスクの他に平成25～26年度にかけた悉皆調査の中で、我喜屋と島尻で2箇所のグスクの存在が確認された。

### ①賀陽グスク

伊平屋島で最も高い賀陽山の山頂に築かれたグスクで、賀陽グスクと命名された。グスクの虎口（コグチ）は南を向き、甕門（オウジョウ）という独特の入口となっており島尻側からの出入り口である。島尻の海はサンゴ礁に囲まれているが西側にヤータグチ（八幡口）、東側にはサンゴ礁の大きな切れ目のウフグチがあり、沖縄のグスク立地に欠かせない海との関連性が指摘されている。

村史における屋蔵大主の来島説で、「我喜屋にも城を築いて伊平屋地方を統治されたとのことであるが、伊平屋地方での築城場所は、現在不明である。しかしその築城説からすると、我喜屋の我陽岳（賀陽山のことか？）の頂上には、石垣を積み巡らしたところがあり、その場所を現在城（グスク）といっているから、多分その場所であっただろうと察せられる。」と記されている。



①基壇補築



②出土品発見場所



③虎口（島尻側入口）



④池



⑤弧を描く石積



⑥我喜屋側入口

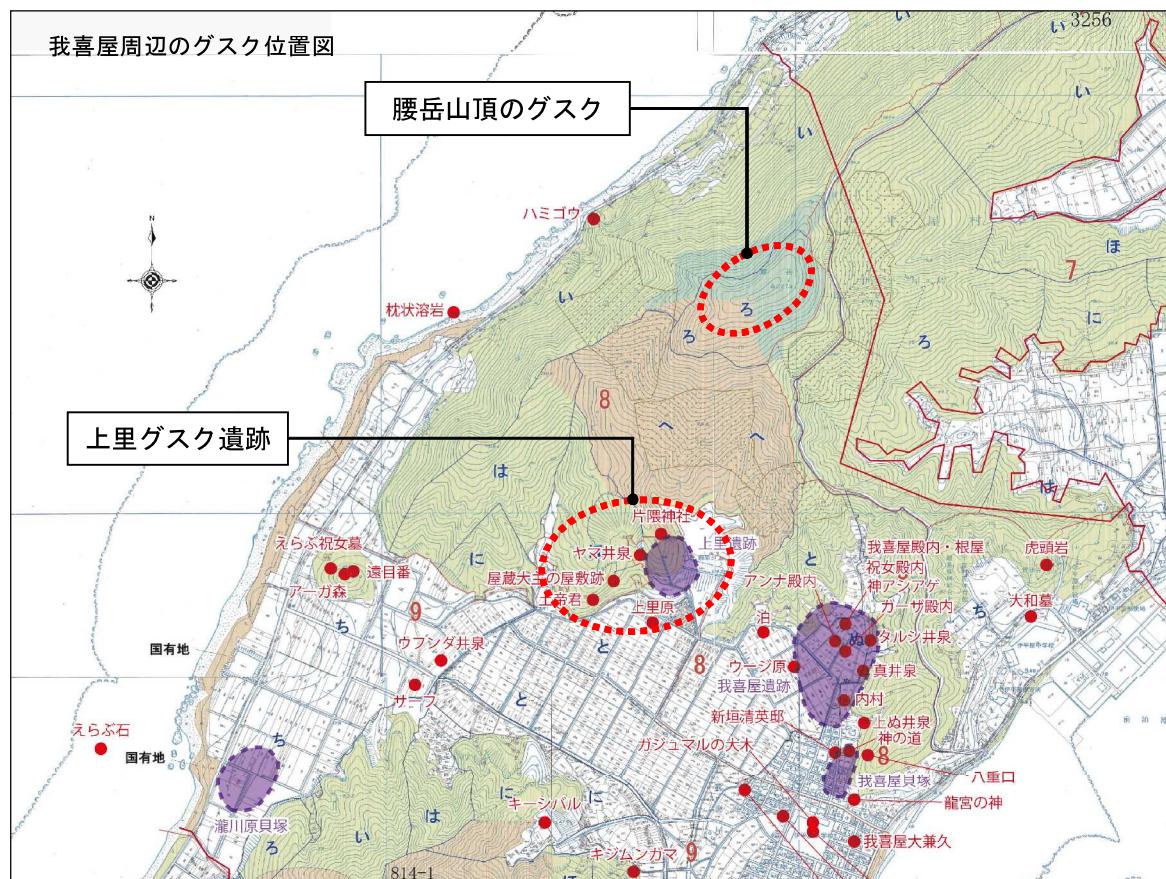


### (3) 上里グスク遺跡と腰岳グスク（仮称）

現在の片隈神社の入口駐車場周辺は、伝説で屋蔵大主の屋敷跡と言われ、「蔵屋敷」という土地に付けられたハル名も残っている。この場所は発掘されて上里遺跡と命名されたが、周辺のダム建設や駐車場整備に伴い搅乱された状態にあるとされている。腰岳南の山裾に位置する。

この上里遺跡の背後の腰岳に、頂上部を取り巻くような石積みの一部が確認され、グスクの跡であることが當眞嗣一先生によって確認された。

村史では、我喜屋に築城説があるが場所が不明としていたが、腰岳頂上のグスクが屋蔵大主のグスクの可能性が高まってきた。



腰岳山頂のグスク

西側内石積



西側外石積



東側石積



上里グスク遺跡

トイレ整備前と現在の片隈神社



石列



### 3) 琉球王国時代

琉球王国時代の伊平屋について、康熙(1713年)の琉球国由来記に記載された御嶽と乾隆9年(1744年)の伊平屋島松山(ソマヤマ)竿入帳の内容から取りまとめる。

#### (1) 琉球国由来記に記載された御嶽

1713年に完成した「琉球国由来記」によれば伊平屋には13箇所の御嶽があり、伊是名島の9箇所と比較して御嶽の数が多いことが特筆される。これらの御嶽のなかで、公儀祈願所は野甫に3箇所、我喜屋に1箇所、田名に2箇所の合計6箇所あるが、野甫の御嶽は全て公儀祈願所である。

##### ①公儀祈願所

###### 1) 野甫

- ・大山御イベ(神名セロマン)
- ・アフリ嶽御イベ(神名アフリ森)
- ・銘賀瀬嶽御イベ(神名コシアテ森)

###### 2) 我喜屋

- ・カタクマ嶽御イベ(神名コシアテ森)

###### 3) 田名

- ・ヲツ川嶽御イベ(神名アフリ森)
- ・城嶽御イベ(神名コシアテ森)

##### ②島中拝所

###### 1) 島尻

- ・阿波嶽御イベ(寄上森)

###### 2) 我喜屋

- ・アメ嶽御イベ(神名西ノ森)
- ・カヨウ嶽御イベ(神名ノダテ森)
- ・神ノ嶽御イベ(神名アフリ森)

###### 3) 田名

- ・アサ嶽御イベ(神名コンダ森)
- ・三崎御イベ(神名アウサキ森)
- ・マセヤ嶽御イベ(神名アカラ森)

#### (2) アフリ嶽

「琉球国由来記」によると、今帰仁のアフリノハナに大きな傘が立つと国家に良い前兆があり、琉球王国のすぐれた神様である君真物の神がアフリ嶽(安須森御嶽)に現れると記されている。伊平屋の御嶽の神名にも、アフリ森が3箇所あり極めて大事な場所である。

- ・野甫：アフリ嶽御イベ(神名アフリ森)
- ・田名：ヲツ川嶽御イベ(神名アフリ森)
- ・我喜屋：神ノ嶽御イベ(神名アフリ森)

## 御嶽の想定位置図

